

インフルエンザ

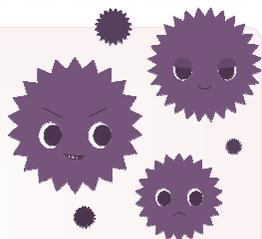
はじめに

インフルエンザウイルスの感染によるもので、一般の風邪よりも症状が重いために風邪とは別にインフルエンザとして扱われます。

インフルエンザウイルスは A, B, C 型の3種があり、人に流行をひき起こすのは A と B 型です。

毎年12月から流行が始まり、1～3月にピークをむかえ、4～5月に減少していきませんが、この時期に人口の20～30%が感染して、その半数が発症すると言われます。

2011年～2012年の流行は75%が香港 A 型、25%が B 型でした。



症状 ~しょうじょう~

インフルエンザに感染した人の咳やくしゃみにウイルスが含まれていて、これを吸うことにより感染する「飛沫感染」により発病します。

潜伏期間は1～3日

悪寒、発熱、頭痛、関節痛・筋肉痛、全身倦怠感を特徴として、咽頭痛、鼻水、咳、痰などの気道症状を伴います。悪心、おう吐、腹痛、下痢といった消化器症状を伴うことも少なくありません。

すなわち、のど風邪、胃腸風邪の症状があり、38度以上の高熱と節々が痛むという、何でもありの症状で、そのすべてがひどいという最悪の状態です。

私も若いころに発病したことがあります。突然の悪寒でガタガタ体が震えだし、その後カーッと39度まで発熱したかと思ったら、下痢でピーピーとなり急性脱水症でへろへろになりました。なんとか立ち直るのに数日を要し、咳の症状がおさまるのに2週間くらい、完全に状態が戻ったのが1カ月くらいかかったのを覚えています。

これが高齢者だったら本当に命が危ないと思います。ワクチンを接種せずに感染した患者さんは、あまりの辛さに「来年はワクチンを絶対打ちます」と言われます。

診断 ~しんだん~

インフルエンザ迅速診断キットがあり、陽性の場合には A 型・B 型の鑑別ができます。インフルエンザウイルスは鼻の奥に感染するため、綿棒でこの部分をこすって粘液を採取します。

手加減すると陽性率が下がるので「グリグリ」こすするため、患者さんからは拷問と言われます。

治療 ~ちりょう~

インフルエンザの増殖を抑える薬があります。内服薬はタミフル、吸入薬はリレンザとイナビル、注射薬はラピアクタです。

増殖を抑えるのですから発症してしまったら、できるだけ早く使わないと意味がありません。ですから怪しい症状があったら、すぐに受診していただくかなければなりません。

感染の初期の場合は検査をしても陽性と出ないことがあります。症状をみて治療を開始させていただいています。

私は確実にインフルエンザと診断された場合は、

1回の吸入で治療が終わるイナビルを処方しています。

おそらくインフルエンザだと思うが、検査が陰性で症状が軽い場合は5日間吸入するリレンザを使います。

タミフルは吸入ができない方に投与しています。

薬が効くと熱は下がりますが、気道症状や消化器症状までは改善されません。

おわりに

学校保健安全法では出席停止期間は「発病後5日を経過し、かつ解熱をして2日を経過するまで」、幼稚園児は「発病後5日を経過し、かつ解熱をして3日を経過するまで」となっています。

ようするにこの間は人にうつる可能性が高いということなので、成人も出勤に際しては同様の基準で考えております。

予防が大切なのは言うまでもありませんので、この時期は外出時にマスクをつけて、できることなら人混みを避け、帰宅したら手洗いとうがいをしっかり行いましょう。

